

6/14

親子でつなぐ交通安全 ファミ絵馬祈願プロジェクト

交通事故のない社会を目指して、南大町こども園の園児 49 人がファミリー交通安全絵馬(通称:ファミ絵馬)を作成し、家族にプレゼントしました。

これは、全国で交通事故が相次ぐ中、氷見市交通安全対策協議会が児童・園児らの交通安全を守るため行う取り組みの一環です。

伊勢玉神社でお参りをした園児たちは、「よく見てね」「おじいちゃんおばあちゃんぶじカエル」などと書かれた絵馬を「気を付けて運転してね」と、家族に手渡しました。



6/25

守ろう・育てよう氷見の豊かな海と森 漁業者による森づくり

氷見の美しい海を次世代に受け継ぐため、インドネシア人実習生 6 人を含む漁業関係者ら 21 人が西朴木地区で植林活動を行い、気持ちの良い汗を流しました。

これは、漁業者や氷見漁業協同組合でつくる氷見市水産多面的機能発揮対策協議会が環境や生態系の保全活動の一環として毎年行っているものです。豊かな森が保たれることで、山から海に栄養が供給され、食の恵みも与えてくれる美しい海を守ることができます。

参加者は、海の恵みに大きく関わる森に感謝の気持ちを感じながら、0.5 ヘクタールの敷地に 150 本の落葉広葉樹「コナラの苗木」を丁寧に植え付けました。



6/28

氷見の夜を堪能！ 氷見夜のまちなかグル巡り 出発式

チケットとマップを手に、氷見の美味しい食を求めて参加店を巡る「氷見夜のまちなかグル巡り」が今年も開催されました。

これは、「食」を通して氷見の夜を盛り上げようと、氷見商工会議所が 6 月、8 月、10 月の最終金曜日に開催しているイベントです。

今年第 1 回目となる今回は、中の橋で出発式が開催され、氷見の地酒などが来場者に振る舞われました。その後、「氷見の美味しい！楽しい！」を求めて、それぞれ夜のまちへと繰り出しました。



6/28.29

～晴れの日も、雨の日も、雪の日も、遊びたい日も、学びたい日も。

氷見の 365 日をつなぐ施設へ～

海浜植物園リニューアル市民説明会

6月28日、29日に、海浜植物園でリニューアル計画の市民説明会が開催され、2日間で約40人が参加しました。

リニューアル後のイメージについて紹介した後、参加者は大温室や展示庭園の現地を歩きながら説明を聞き、イメージを膨らませました。

参加者からは「植物の展示だけでは何度も足を運ばない」といった意見があり、市からは「体験プログラムを充実することで、いつ来ても変化がある施設を目指す」と参加者に説明しました。

他に「若い世代から年配の世代まで幅広い層をターゲットにした仕掛けを」「現在の植物を有効活用してほしい」「遊具の安全対策徹底を」「子どもたちが喜ぶような完熟バナナが食べられる施設にしてはどうか」など、活発な意見が投げかけられました。

※海浜植物園のリニューアル計画については、広報ひみ8月号2～3ページをご覧ください。



7/2

地域と一緒に課題を解決！

西部中学校校区応援隊

西部中学校では、生徒が「校区応援隊」を組織し、明和・速川・久目地区の住民らと地元の課題解決に取り組んでいます。

7月3日、Cafe 風楽里では「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」で参加中の4人を含む8人が、久目小学校の児童とともに、久目地区の農園「ブルーベリーと山の幸いなかふれさか」でブルーベリー摘みを体験。小学生の頃から、企業体験などでブルーベリー摘みを経験している児童・生徒は、おいしいブルーベリーの見分け方などを話しながら、地元の魅力を再確認していました。

今後、校区応援隊の生徒たちは、商品企画や開発、販売促進などに向けて商品改良やパッケージのデザインなどに挑戦します。生徒は「統合後、使用されなくなる久目小学校を教室ごとに会社が利用できる施設にして、若い人からお年寄りまでが集まる場所にしたい」と語ってくれました。



7/4

大きくなあれ！ ヒラメの稚魚放流

「つくり育てる漁業」の推進を図るため、漁業関係者らが漁港周辺の海岸でヒラメの稚魚の放流を行いました。

これは、漁業者や氷見漁業協同組合でつくる氷見市水産多面的機能発揮対策協議会が、豊かな海づくりの一環として毎年実施しているものです。

阿尾海岸では、体長約8cmのヒラメの稚魚を阿尾保育園の園児19人が笑顔で「大きくなあれ」と海に優しく放ち、成長を願いました。

今回、放流したヒラメ計3万4000尾は、来年の秋には25cm～30cmほどにまで成長します。

8月にはクロダイの稚魚とクルマエビの稚エビも放流する予定です。



7/7

県境を越え、大正からつなぐ両地区の思い 道路愛護デー会見式

氷見市と石川県羽咋郡宝達志水町の県境（岩瀬地内）で、林氷見市長、寶達宝達志水町長ほか、両県議会議員、市・町議会議長など約30人が出席し、道路愛護デー会見式が執り行われました。

これは大正7年に当時の氷見郡速川村村長と石川県北志雄村村長が発起人となり「両地区の発展と産業の振興は、まずは道路整備から」との思いから始めたもので、今回が102回目となります。

会見式では、寶達町長が「先人の努力に感謝する」と述べたほか、林市長が「両市町が手を携えて、道路整備に尽力したい」と語り、参加者全員が万歳で決意を新たにしました。

また、当日は約5,500人が集落ぐるみで早朝から道路の草刈りやゴミ拾いを行いました。



7/12

夏休みに向けて子どもたちへ 安全に過ごすための「こども手帳」贈呈

夏休みを前に、市内小・中学生に配布する「こども手帳」「ネット安全ガイド」「災害用伝言ダイヤル」が公益財団法人日本公衆電話会の林富山副支部長から鎌仲教育長に手渡されました。

これは、公益財団法人日本公衆電話会が5年前から市内の小中学生に配布しているもので、児童・生徒自身の体や命を守る方法や、ネットの正しい利用方法などが記載されています。

林副支部長は「夏休みに向けて、子どもたちが安全に楽しい夏休みを過ごせるよう活用してほしい」と語ってくれました。

